

ギョウジというと、一般的には行う事と書きま  
す。これは、様々な儀式を一定の計画のもとに、日  
を決めて行う事柄・催しを指し、イベントという性  
格が強いものです。一方仏教では、多くの場合は行  
うに持つという字を使い、行持と書きます。行とい  
う仏としての修行を保ち、持続していくことという  
意味で、道元禅師はこの行持を大変、重んじられま  
した。

西暦八百年頃の中国に百丈懐海(ひやくしようかい)とい  
う禅師様が  
おられました。禅の修行道場の生活規則を初めて作ら  
れた方であり、その徳を慕って各地から多くの修行  
者が集まりました。そのため修行道場では、食糧を  
確保するための、農作業を中心とした任務が大切な  
行持でした。朝の食事が終わると畑へと出るの  
です。

### 行事と行持

東龍寺住職 渡邊 宣昭

# 龍 声

## 東龍寺報

平成元年三月廿五日創刊  
発行編集所 〒959-1502  
新潟県南蒲原郡田上町  
曹洞宗 東龍寺  
電話 (0256) 57-3395  
FAX (0256) 57-2174  
ホームページ  
<http://www.ginzado.ne.jp/~ryusei/>  
E-mail  
ryusei@ginzado.ne.jp



第16回眼蔵会中日(6月9日) 講本・行持の巻

百丈禅師はご高齢にもかかわらず、血気盛んな若者と一緒  
に力を尽くされました。修行僧たちはこれをみて心を痛め、  
気の毒に思いました。「あまりご無理をなさると、身体をこ  
わします。どうかたまにはお休みください。農作業は私たち  
でやりますから」と申し出ても、百丈禅師は一緒に働くこと  
をやめませんでした。そこでとうとう、修行僧たちは禅師の  
任務の道具を隠してしまいました。すると禅師はその日、昼  
と夜の食事をとおりになら  
なかつたのです。

その訳を尋ねると「毎日  
の畑仕事は私にとつても大  
切な行持じゃ。それができ  
ないのだから食事を頂くわ  
けにはいかん。一日作さざ  
れば一日食せざじゃ」とい  
われました。その後、禅師  
と修行僧たちは、より一層  
の修行に励んだのです。  
「働かざる者、食うべから  
ず」と言いますが、これは  
他からの強制的な押し付け  
の言葉です。百丈禅師の話  
は「自らのできることを自  
発的に行っていく事こそが  
行持である」と教えている  
のです。行うに持つと書く  
「行持」とは、自らが積極  
的に行う実践行なのです。

合掌



田上小学校3年生親子坐禅 6月6日



和光ペンディング、二泊三日研修 12月17日

第二十三回秋の講演会を予  
定している。  
【寄付御礼】  
一、五月、新潟市秋葉区・湯田  
学氏より、自作の「持出用  
のオリジナル折畳み拝敷」  
と「畳地の花台」をご寄附  
頂いた。  
一、十月、住職が黄恩衣の被着  
が許可されたことに対し、  
三条市渡辺喜彦氏より「羽  
二重」と「紗」、滝澤平造家  
をご寄附頂いた。

### 【月例加茂法話会】

一、毎月一回、夜、加茂市上町コミュ  
ニティーセンターの二階を貸り、僧  
侶九名(三名ずつ担当)による法話  
を聞く会を開催しています。お気軽  
にご参加下さい。

### 【月例坐禅会の御案内】

一、月例坐禅会を毎月第二土曜日  
夜七時半より行っています。  
お気軽にご参加ください。

### 【心の癒し坐禅体験】

一、毎週水曜、木曜(祭日は除く)の  
午後四時から、約一時間、湯田上温  
泉宿泊者に坐禅修行体験をしてい  
だいております。  
但し、八月・十一月〜三月は、お  
休みしております。

### 【梅花講のお知らせ】

一、梅花講では、毎月七日と、二十二  
日の二回練習をおこなっています。

お始めになりたい方は、お気軽に  
ご参加ください。

### 【お寺よりの御礼とお願い】

一、今年はお盆の柵廻りを下記の  
日程で行いますので、ご理解とご協  
力の程、お願いします。  
【お盆前】新潟・亀田・三条・巻・  
燕・白根  
【十三日住職】新津・中山・赤浜・  
笠巻・三ツ屋・三枚湯・市ノ瀬・  
覚路津  
【お盆中住職】川之下・原ヶ崎下吉田・  
鎌倉・新保・龍玄・鳴・庄瀬・  
石田新田・後藤・曾根・横場・  
羽生田・川船河  
【光明寺様】本田上・山崎・山田・  
湯古屋・加茂地区  
【少林寺】上野  
【少林寺若様】湯川・谷・中店  
尚、当日多少の変更が出る場合もある  
かもしれませんが、ご容赦ください。

### 【編集後記】

寺報三十号を発刊するに当たり、  
角田隆真師、茅原玄道師、豊田彰  
氏、山川雅己氏、湯田学氏より、ご  
寄稿を賜り有難うございました。今  
後も皆様のご寄稿をお待ちしており

### 曹洞宗 心の電話

☎0120-508-740

携帯電話の方は 03-3454-5410

こちらに電話をすると、全国の曹洞  
宗の方丈様達が一週間交代で、三分間  
の「ほとけの心」をわかりやすく説いた  
法話が流れます。二十四時間いつでも  
繋がりますので、是非、お聞きください。  
東龍寺住職も平成十八年度より、年  
二回担当しております。  
本年度・一回目 7月10日〜16日  
二回目 1月15日〜21日

### 永平寺 電話説法

☎0776-63-3399

役寮が、十  
日ごとに代わ  
って、三〜五分  
の法話を行な  
っています。



二月二十三日〜三月一日にかけ  
て、遊行会主催の『龍樹菩薩ゆかり  
の地と仏教美術の旅』(総勢十九  
名)に、行つて参りました。三度目  
の入笠(インドの旅)でした。  
今回は、西インドのムンバイ(旧  
ボンベイ)に入り、デカン高原への  
佛跡巡拝でした。お釈迦様の第一祖  
の弟子から数え  
て、十四代目の  
龍樹菩薩(西暦  
一五〇〜二五〇  
年頃の方)が布  
教伝道されたナ  
ーガルジュナコ  
ンダ、紀元前一  
世紀〜紀元後十  
二世紀頃に掘ら  
れたエローラ・  
アジャンタの世  
界遺産の大石窟  
寺院群等に圧倒  
された感動の旅でした。檀家の茂木  
さんご夫婦、参拝者の大湊さん親子  
にもご参加頂き、有難かつたです。  
住職 合掌



大杉枯れ枝処理工事

一、五月十日、十一日、大杉と裏庭の松の枯れ枝処理を行った。



本堂脇トイレ工事

一、四月二十日から、本堂脇トイレ改修工事と車庫奥物置床の改修工事を行った。

【平成二十九年度事業行持報告】

- 六月 金毘羅大祭
- 八月 一日 くらぼん会 (盆参)
- 八月 廿四日 水子地藏尊並びに・観音様大祭
- 九月 廿三日 秋のお彼岸会 (お彼岸の中目)
- 十月 常齋米法要
- 十二月 三十一日 除夜祭 (除夜の鐘) 大般若祈祷会
- 一月 一日 寺年始 (近隣の檀家)
- 一月 二日 寺年始 (遠方の檀家)
- 三月 廿一日 春のお彼岸会 (お彼岸の中目)

- 一、六月十六日 (金) 午前十一時より、第二十八回金毘羅大祭を講員三十四名の参加で行った。
- 一、六月八日 (木) 十日 (土) に、駒澤大学教授角田泰隆老師を講師にお招きし、第十六回眼蔵会を、講本「行持」の巻(二回目)で開催した。
- 一、六月二日 (水) 三日 (金) に、田上本山講では「大本山總持寺参拝と秋葉総本殿可睡齋、三谷(みや)温泉の旅」を三十一名の参加で行った。
- 一、八月二十四日 (日)、第三九回水子地藏・第十八回聖観世音菩薩大祭を行った。東蒲原郡阿賀町正壽寺住職職定明老師に、法話を戴いた。
- 一、九月四日、十七日、照光殿・位牌堂脇の竹雑木の伐採を行った。
- 一、九月十日 (日) 午後五時から、第八回湯田温泉祭りの一環として、田上在住のソプラノ歌手・桑原純子氏を中心としたクラシックコンサートが、本堂で行われた。
- 一、九月二十九日 (金) 午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、福井県壺泉寺住職・青森県恐山菩提寺院代(山主代理)南直哉



第8回クラシックコンサート 9月10日



山口県洞泉寺様一行 9月30日

一、九月三十日 (土)、山口県岩国市洞泉寺住職石井祐光老師一行二十一名、東龍寺に参拝され、法話を勤めさせて頂いた。若方丈の龍祐師は、本山役寮として共に勤めた法友。一、今冬は、平成二十四年以來の大雪になり、雪下ろしは、半日ずつではあつたが、七日間に渡り、延べ十八人の手間で行った。



南直哉老師講演の様子 9月29日

老師をお招きし、第二十二回秋の講演会を行った。



山堂の開き 2月13日  
裏本堂の雪掻き  
もれた観音様のお遍路像 2月7日  
埋もれた観音様のお遍路像

【参禅の報告】

- 一、三月十六日、NHK文化センター「坐禅に親しむ」の会員八名、東龍寺で坐禅二炷、中食。
- 一、四月十日、加茂農林高校「生物工学科・生命情報コース」一年生。二十名。
- 一、四月二十一日、「第三十七回卯辰会の集い」。二十名。
- 一、五月十三日、新潟通信機一行、二十四名。
- 一、六月四日早朝「成れる会」一行、十七名。
- 一、同日夕方、加茂中学校野球部。十九名。
- 一、六月六日、田上小学校三年生親子。五十六名(内子供二十九名)。
- 一、七月六日、国際ホテルブライダル専門学校(NSG)。十五名。
- 一、七月十四日、くみあい企画、坐禅。十五名。
- 一、八月十八日、田上町社会福祉協議会「ボランティアチャレンジスクール」十一名坐禅と掃除。引率一名。

第十六回東龍寺眼蔵会に随喜して

長野県常圓寺副住職 角 田 隆 真



師匠である講師老師に給仕をする筆者 6月10日 小食 (朝食)

昨年六月に東龍寺にて開催された第十六回眼蔵会に参加させていただき、長野県常圓寺副住職の角田隆真と申します。私は昨年が初参加でしたが、まずは、東龍寺ご住職の渡辺宣昭老師のご厚意により、このような有り難い行事に参加することができましたことを御礼申し上げます。

この度の眼蔵会のテキストである『正法眼蔵』は曹洞宗の宗祖である道元禅師の代表的著作ですが、その内容は非常に難解であり、非才の私が独学で参究しようとしても、とても読み解けるものではありません。その『正法眼蔵』を私の師匠であり、駒澤大学教授である角田泰隆先生に解説いただきながら参究できたことは、大変有意義なことでした。

また、東龍寺眼蔵会では、大勢の僧侶が随喜する中、坐禅や飯台も坐禅堂で行われました。坐禅や読経は一人でも行じることが可能であり、僧侶も日々の生活の中で修行していただきますが、僧堂飯台は料理を作っていた方・給仕していただく方・食事をいただく方がそれぞれ一定の人数で必要になるため、我々も各々の寺院の中で日常的にこれを行うことは出来ません。

さらには、開講式で行われた略布薩や二日目の晩課に行われた降誕会(お釈迦様の誕生を祝う法要)も大勢の僧侶の随喜が必要であり、我々僧侶にとってもめずらしくま

た有り難い行事であります。適宜行っていないと忘れてしまふのが人間でありまして、そのような意味でこれらの修行ができたことは、これもまた意義深いものであります。

私がこのような有り難い行事に参加することができましたのも、東龍寺ご住職の渡辺宣昭老師、随喜の皆様方、この行事を裏方で支えてくださった各御寺院様や寺族様・檀信徒様のおかげであり、改めて御礼申し上げますと共に、来年も再びこの会が開催されて随喜させていただきますことを切に願っております。

住職より一言

大本山永平寺での修行を終えて

新潟市栄徳寺副住職 茅 原 玄 道

私は昨年の十月二日に三年九ヶ月の修行生活に区切りをつけて永平寺様を乞暇してまいりました。乞暇に際して私は徒歩で師寮寺に帰ることを安居中から考えていました。

永平寺様に上山の時、山門に立ち先輩修行僧から問答をかけられます。「どうして永平寺に来たのか」「何しに来たのか」などを問われます。道元禅師様の教えを学びに来たこと、厳しい環境に身を置いて修行をしに来たことなどを答えました。すると先輩和尚さんはどうやってここまで来たのか

父親の七回忌に思う

新潟市秋葉区 湯田 学

昨年十二月に東龍寺様で父親の七回忌をさせて戴きました。親父は腕の良い畳職人で、私も後を継いで畳屋に成つて四十一年になります。東龍寺様の畳は私が作ったのですが、本堂に敷いてある拝敷(拝敷四つつき茶中紋四方縁 七五三紋)は親父の作品です。御参りをさせて戴く度にその拝敷を見て親父のことを思い出します。私が成り始めの頃は、毎日よく怒られました。今とは違って、「教えるから見て覚える」の時代でしたから、そんなに簡単に覚えられる訳もなく本当によく怒られました。

親父は、常にどうすれば上手に作れるかとか、こうすれば長持ちするかとか考えている人で他の畳職人が持つていない技を多数持つていました。道具も自分が使い易いように休みの日になると作っていました。今も細工に使う曲り針は親父が作った物を使っているし、私がリクエレストして作つてもらつた道具も使つています。若い頃は他人じゃなくて親に怒られるから、なお頭にも来たり何度も辞めようと思つた時がありました。でも、今思うとただ畳を作るんじゃないやなくて上手に自分が納得する畳を作る。常に綺麗に仕上げる方法を考え研究する。それがお客様や自分の為になる。そういう精神を親父から教えて貰つたと思つています。怒られたことを今は本当に感謝しています。生きていく内に「ありがとう」を言つておけばよかつたなあと。

私が継いで二十年位で親父は引退してしまい、歳を



慈父を祀る仏壇にて、お母様と2月2日

取つたつてのもありますが、今までの畳縫着機械とは違って全自動ロボットの縫着機械になつた為、操作が出来なくなつてしまひ、昔とは逆に、私が親父に教えたり怒つたり。「世代交代だなあ」と思う時でした。もっとも、この業界としては珍しく、私が結婚して子供が出来たら、材料の選別・仕入れ・経営・建築関係の会合や飲み会まで、すべて私に任せるようになりました。私を大人に一丁前にする為にそうしたんだと思いますが、そのお陰で同世代の畳屋より一歩先に頭を出す事ができました。子供が幾つになつても譲らないこの業界で、口を出したかつたこともいっぱいあつたと思いますが、これも親父に感謝しています。

始めて三十年位で作れない畳は無く、どんな畳でも作れるようになり、昔と材料や工法は違う所もありますが、畳作りでは親父を越えたかと思つています。ただ、拝敷や飾台や鐘敷を作る事を有職工芸と言いますが、まだまだ親父の技には追いついていません。親父を超えるように、これからも日々努力して親父への感謝、供養を忘れず頑張つていきたいと思ひます。

砥の水に 陽炎揺れて 畳作る 親子三人の お茶のひととき 母静江 作

〜 住職より一言〜

湯田畳屋さんとは、三十年來のお付き合いで、先代には畳だけでなく、拝敷・磬子(本堂の大きな鐘)や木魚の台等を御寄付頂き、有り難く使わせてもらつています。その後を継いだ学氏からも、檀家のお通夜で使う持出用のオリジナル折畳み拝敷を作つてもらひ重宝しています。

写真を撮りに伺つた日が、なんと昭和二年二月二日生まれのお母様の九十一歳の誕生日! これからお母様・ご家族を大切に、家業にご精進され、先祖を護つていってください。

と問うてきたのです。上山の時は電車とバスを利用したのでその通り答えると、「電車、バスを使って来たのならそれは甘えではないのか。」到着してから永平寺様での修行生活が始まると考えていた私には衝撃的で、今でも忘れられない言葉です。思えばこの時から歩いて帰ろうと決めていたのかもしれません。

出発した日から数日は雨でした。永平寺様を出て金沢の大乗寺様を目指しました。大乗寺様は永平寺三世徹通義介禅師が御開山様から大乗寺二十六世月舟宗胡大和尚まで私の法系に大きく関わるお寺なので、ぜひ拝登したいと考え最初の目的地にしました。天候や地形、体調によつて歩ける距離は変わりましたが、一日三十キロを目安に八時から十六時まで只々歩き続けました。ちよつとした風の向きでも数十キロ歩けば向かい風か、追い風かで足の調子も変わってきます。背負っているリュックもシャツ一枚、有るか無いかで一日八時間背負えば肩への負担が変わります。ちよつとした物の違いが積み重なることで大きな変化になりました。初めの三日間で足に水膨れができましたが、それを潰して歩き続けたので、四日目に大乗寺様に着いた頃には足はテーピングと絆創膏だらけになっていました。翌日には峨山紹碩禅師の生誕の津幡町を経由して俱利伽羅峠をぬけて富山県へ向かいました。

富山県では高岡市の瑞龍寺様を拝登させて頂きました。そこからは日本海の手沿いを歩いて新潟を目指しました。新潟に入つてからは長岡を通過して田上の東龍寺様を目指しました。私が永平寺様で、本山参拝に来られた方々に坐禅を教える参禅係にいた時に、指導してくださつたのが渡邊宣昭老師でした。今回帰る際に声をかけてもらひ寄せて頂きました。毎日東龍寺様での暁天坐禅は実に十五日ぶりの坐禅でした。毎日



東龍寺を朝出発の時 10月17日

のように坐禅をしていると気がつかなくなつた体の傾きや呼吸を感じることができました。こんなにも坐禅をしたいと想つたのは久しぶりのこと、坐禅堂での就寝と暁天坐禅の機会を与えて頂きました。総歩行距離は約四百二十キロにも及びました。

仏法遭うこと稀なり。電車やバスがない時代に百里以上離れたこの師寮寺に仏法が伝わり私がこの様に修行出来た事は誠に遭ひ難いことだと感じました。また、只々歩くということの難しさを痛感いたしました。

本山での安居が終われば修行は終わりというわけではなく、今後も日々の全てが修行と肝に銘じ生活したいと思ひます。

〜 住職より一言〜

茅原玄道師は、私が本山参禅係の役寮時代、信頼がおける寮長で誠実に前向きに公務を勤めてくれました。本山から、歩いて帰山の途中、立ち寄つて共に坐る時間を持つてたことをうれしく思ひます。

これからも、日々の行持を大切に勤めていってください。

眼蔵会案内

第十七回眼蔵会を七月五日(木)〜七日(土)に行います。是非、ご参加ご修行ください。

